

Vera Koo: Why Women Learn from a Female Instructor

ベラ・クー：女性が女性のインストラクターに教わる理由

私はこれまでの射撃人生で、Jim O'Youngをはじめ素晴らしい恩師達に恵まれました。私は女性のインストラクターに習ったことがありませんでした。私はこのスポーツで知識とスキルを身につけたかったので、女性に教わるかどうかはポイントではありませんでした。射撃クラスでは、男性に囲まれて学んだものでした。二年間、男性インストラクターが教えるクラスで学びましたが、ほとんどが男性生徒でした。上級クラスになると、女性は他に誰もいませんでした。



相対的に女性の銃器インストラクター数が不足していることは、私が射撃の腕を磨くことに影響はありませんでした。しかし射撃スポーツに参加する女性人口の増加には取り組まなければいけない問題です。

自分と同じような状況の人達に囲まれている方が快適に感じます。それと同じで、女性は女性のインストラクターに教わる方がより習いやすいのだと思います。

射撃のレンジは時に女性にとって居心地の良くないことがあります。女性を見かけることは増え一般的にはなっていますが、まだ課題が残っています。

今年の初め、カリフォルニアのいつも行っているガ射撃のレンジに行く途中、店に立ち寄りました。紙袋に入れた緑色野菜を、冷えた状態のままであるといいなと思いながらレンジに行きました。いつも行くホームレンジ、そのレンジオフィサーとほとんどのシューター達は私のことを知ってはいましたが、その日いたレンジオフィサーとは私は初対面でした。



私が練習セッションのため準備を整えていた時のことです。そのレンジオフィサーは私の隣に座り、手慣れた感じで銃やギアを装着していくのを見て、よく射撃をするのかと聞いてきました。私はそこそこに撃ちますね、と答えました。別のベテランシューターがそれを聞きいて私の方を見てニヤッと笑いました。

レンジオフィサーは私の野菜が入った袋を見ると「撃ち終わって家に帰ったらうさぎに餌でもやるのかい」と聞きました。私は「いいえ、帰ったら料理するんです」と答えました。彼は冗談だよと付け加えてきました。

数10発撃ち終わったところに、また先ほどのレンジオフィサーがやってきました。今回は声のトーンがちょっと違い、私は射撃を教えているのかと聞いてきました。彼は奥さんの誕生日にターゲットを撃つレッスンをプレゼントしたいと言いました。そして、奥さんが射撃スポーツを習うには、女性インストラクターの方が良いかもしれないと言いました。私は彼にそうかもしれませんねと言い、残念ながら私は教えることはやっていないと答えました。NRAの女性のためのプログラムで女性のインストラクターを探してみると良いですよとオススメしました。NRAの女性向けプログラムのおかげで、銃器を安全に取り扱えることが出来る女性が増えました。

その後彼に、ガールフレンドや奥さんをレンジに連れてきて、射撃を教えることは珍しいことではなくなってきましたよ、と伝えました。しかし彼は、夫やボーイフレンドが教えると大抵の女性はレンジに来なくなると言いました。



私はそれを聞いた時驚きました。好きな人が教えてくれるのであれば、安心して習うことが出来るのではないかと思ったからです。

ところが、やはり一般的には自分と似た人達に囲まれている方が安心するのだと考えました。初心者の女性シューターは、射撃を教えてくれるのが例え自分の愛する人で経験豊富なシューターであっても、圧倒されてしまうことがあるのです。

あのレンジオフィサーが、ウサギに餌をやるのかと聞いてきましたが、その手の発言を聞くのは初めてじゃありませんでした。私が射撃初心者だった頃、よくそういったことを言われたものです。私がキャリアを積み上げ出した頃、女性は真剣に受け入れてもらえませんでした。20年前に比べ今では女性のシューターも増え、女性シューターの受け入れられ方にも変化が見られるようになりました。しかしながら、まだまだ彼らの価値観が十分に追いついてきてはいないようです。

2013年、ガンスミスになりたいと言ってきた若い女性がいました。女性がそのような職業に就きたいと私が聞いたのは、その時が初めてでした。彼女は銃器をどのように組み立てるのか学んでエアソフト銃の全てを知りたいのだと言いました。

私はその会話を思い出した今、とても貴重な考えだなと思いました。私たちの射撃スポーツには、もっと彼女のような女性が必要です。女性のガンスミスと女性のインストラクターの増加が求められています。

女性のシューターは男性とは違うニーズがあります。例えば、指も腕も長さが短いですし、手は小さめで大抵はそんなに力があるものではありません。私の場合、銃のハンドリングにあたり身体的な限界に挑戦しなくてはなりません。女性シューターが直面する様々なチャレンジングな要素を理解し、女性の手にぴったり収まる銃選びやニーズに応えてくれる、女性のガンスミスがいたら素晴らしいことだと思います。



女性で新米のシューターであった場合、ガンスミスにちゃんと対応してもらえないことがあると感じると思います。そんな中適切な道具を入手するのは困難です。昨年やっと私に助けの手を差し伸べてくれる素晴らしいガンスミスが出現しました。

私は射撃を始めてまもない女性シューターがニーズを満たせるよう、待たされることなくガンミスに銃を調整してもらえるようになれば良いと思っています。また、女性シューターが快適にスキルを磨くことが出来るよう、良いインストラクターが増えることを希望しています。

あいにく、私はインストラクターになるような面は持ち合わせていません。夫とシンガポールに暮らしていた頃、三ヶ月美術学校で教えていたことはあります。そこでは男性も女性も教鞭を取っていましたが、私には人にもものを教える才能はないと悟りました。

さらにベラの記事を読むにはココ (<http://www.womensoutdoornews.com/category/won-guns/vera-koo-won-guns/>) をクリック。